

市民と農民によるブラックバス退治と自然再生

坂本 啓（NPO法人シナイモツゴ郷の会）

私たちは、バス駆除や在来魚の復元により自然再生を実現し、豊かな自然の恵みの一部を享受することを目標に活動している。

本来のため池や沼には様々な魚、エビ、昆虫などが生息し、里山や田園の生態系の中で重要な役割を果たすとともに絶滅が危惧される生物を守ってきた。ところが、近年、これらのため池へブラックバスが密かに放流されて繁殖し、ここに生息する魚類などは全滅に近い状態に陥っている。

水辺の自然再生には外来魚対策が不可欠であるため、伊豆沼バス・バスターズへ積極的に参加すると同時に、人工産卵床の改良などブラックバス退治の技術開発と体制造りを進めてきた。さらに、ブラックバスが繁殖したため池では、池干しを積極的に行いブラックバスを完全駆除してきた。

通常、ブラックバスが繁殖したため池では在来魚が全滅状態にあり、バスを駆除すると魚のいないため池になってしまう。これらのため池では遺伝子攪乱に注意しながら絶滅危惧種のシナイモツゴを放流することによって自然再生を図っている。

放流用のシナイモツゴを確保するために、誰でも出来るシナイモツゴの人工繁殖方法を独自に開発し、小学校などへシナイモツゴの卵から稚魚まで育ててもらう里親制度を確立した。さらに、シナイモツゴが生息するため池を守り、これらのため池の水で米を栽培している農家を支援するため、シナイモツゴ郷の米認証制度を2007年に立ち上げた。2008年には生産者組織「シナイモツゴ郷の米づくり手の会」が結成され、彼らはシナイモツゴが生息する池を増やすために池干しによるブラックバス退治に乗り出した。

継続した取り組みに必要な市民と農民が連携した地域ぐるみの活動の一例を写真を使って紹介し、意見交換したい。